

教育研究所だより



No.240 令和6年9月27日 【発行者】守山市教育研究所 所長 脇阪 久徳
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育研究センター 愛称:エルセンター 3・4階)
TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237
E-mail:kyoikukenkkyu@city.moriyama.lg.jp
HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkkyu_index.html

令和6年度 教育研究発表大会・教職員全体研修会

守山市教育研究発表大会・教職員全体研修会を8月26日(月)に開催しました。昨年度まで2月に開催していた教育研究発表大会ですが、研修の在り方を再検討し今年度から教職員全体研修会と合同で開催いたしました。2学期を目前に控えたあわただしい時期の開催でしたが、ご参加いただき、本当にありがとうございました。

大会の前半では、全国学力・学習状況調査の考察についての報告、守山市の不登校対策の現状についての報告、当研究所研究員による「指導力向上に関する研究」報告をしました。そして、後半は体罰・不適切指導防止研修、教育講演会では、京都橘大学教授 佐敷 恵威子 様から講演をいただきました。



【全国学力・学習状況調査の考察】

学校教育課の西村指導主事より報告を行いました。小学校、中学校共に、ほぼ全国と同等という結果であったものの、「課題の解決に向けて、自分で考えたり、自分の考えをまとめたりする」力に弱さがみられる。課題解決的な学習や、自ら考えを求める学習をさらに進めていく必要がある」と提言させていただきました。そして、各校で取り組んでいただきたいこととして、4点あげさせていただきました。

- ①各校で自校の成果と課題をきちんとつかみ、その課題を全校的に取り組むこと。
- ②「めたふ」を意識して授業の工夫を行うこと。
- ③ICTの利活用について、よりよい方法を校内で話し合い活用方法を見いだしていただきたいこと。
- ④誰もが居場所のある学習環境づくりについて再点検をお願いしたい。

各校で協議し、具体的な形で進めていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【守山市の不登校対策の現状について】

本市教育支援センター所長の脇阪 久徳より「本市の不登校支援の現状」について、報告をさせていただきました。本市においても、小学校・中学校ともここ数年で急激に増加していること。増え続ける不登校児童生徒の支援のため教育研究所の事業から教育支援センターとして独立させ、支援の拠点として充実させていくことを報告させていただきました。そして、子どもに対して、「調子が悪い時もあなたの味方」であってほしいこと、担任が一人で抱え込まず「チームで対応」してほしいこと、保護者も悩んでおられるので「保護者の思いにも寄り添って」ほしいこと、また、「子どもに寄り添う」ことの意味を見つめなおしてほしいと、お願いをさせていただきました。

【教育に関する調査研究発表】

①昨年度の研究員の明富中学校 折木 公美 教諭より、「若手教員のよりよい子ども支援のための教育相談のあり方」と題し昨年度行った研究報告を行いました。先生方へのアンケート調査や聞き取りなどから悩みを分析し、ハンドブックを作成したこと、また、そのハンドブックの活用について検証成果を発表しました。ハンドブックを活用いただいたことで、若手教員の教育相談力向上の一助となれたのではないかと考えております。すべて

の子どもの問題に対応するものではありませんが、一つのヒントとして活用いただき、よりよい支援につなげていただければと考えております。

②今年度の研究員である 木村 有貴 から今年度の調査研究テーマである「新たな不登校を生まない学校における視点を考える」について、研究の方向性について概要説明を行いました。急激に増加する不登校児童生徒の状況に対し、新たな不登校を生まないための支援をどのように進めていけばよいのか。過去の適切な対応事例などをもとに「忘れてはいけない大切なこと」があるのではないかと仮説を立て研究を進めていること。大切な視点の一つとしてアセスメントが重要であると報告をさせていただきました。今後さらに研究を深め、子どもや保護者、そして、先生方のお役に立てればと考えています。

【体罰・不適切指導防止研修】

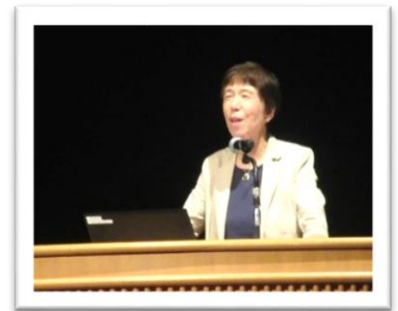
学校教育課教職員担当課長 大崎 寿より今年7月に本市教育委員会で作成した不祥事根絶のガイドラインに基づき研修を行いました。「教育は人なり」と言われるように私たち教職員の職責の重さ、また、体罰はもちろんのこと、不適切な指導は決して許されるものではないこと。そして、これらの行為は、重大な人権侵害であり子どもの人格形成に大きな影響を与え、その後も心に大きな傷を残し続けることが説明されました。

体罰・不適切指導を根絶していくため、各学校で教職員の同僚性を基盤とし、組織的生徒指導力を高めていくこと、教職員一人ひとりには生徒指導実践力を高めていくことが必要だと研修を行いました。

【教育講演会】

京都橘大学 教授 佐敷 恵威子 様より、「教育は人なり 一丸となって取り組む学校・園づくり」と題して、豊富な教職経験をもとに、分かりやすい事例を織り交ぜながらお話をいただきました。

「はじめに 子どもありき」で、目の前にいる子どもから出発すること、地域の課題を共有し系統的に育てていくこと、中学を卒業する時の子どもの姿を保幼小中の教員が互いに思い浮かべ、それに向かって一緒に見守り育てていくことの大切さを教えていただきました。



<大会参加者の感想より>

- ・ 不登校傾向の児童生徒が増えていく中で、どうしようとすぐ考えるのではなく、なぜそうなったのかプロセスを知ることが大切だとわかった。佐敷先生の講話では、私も子どもたちに答えを教える方になってしまうと思った。子どもたちの発想を育むためには、子どもの思いを大切にしなければならないと思った。「はじめに子どもありき」という言葉を常に頭に入れて、こらからの学級経営や授業に生かしていきたい。
- ・ 生徒への関わりについて、日々の生活や授業、部活動など様々な場面での自分の言動を振り返ることができました。生徒指導に悩むことが多いですが少しでも実践できればと思います。常にとは中々難しいかと思いますが、教師がゆとりをもって生徒に寄り添い、困難さに目を向けた関わりができればと思います。
- ・ 不登校対応や教育相談のあり方など、自分のクラスの児童のことを思い浮かべながら、何ができるのかを考えて聞くことができました。目の前の人間は、一人ひとり考え方や状況が異なるので、その時その時に合った支援の仕方をこれからも学んでいきたいと感じました。児童への声かけについての話では、大学生の時にボランティアで小学校に行った時に子どもから「優しいだけじゃ、だめなんだよ。怒る時は、怒らないと。」と言われたことを思い出しました。当時は、褒めることが子どもにとって良いことだと思っていたけれど、子どもはこちらが思っている以上に大人を見ていると働いていく中で感じています。褒めるタイミングやメリハリをつけるタイミング、伝え方について、今一度考えていきたいと思います。
- ・ 不登校支援、教育相談、全体研修すべて、子ども一人ひとりをしっかりみとること、背景をみようとする、そしてチームで対応することの大切さを感じました。自分の立ち位置でできること、チームとしての方向性、しっかり対話して対応していきたいと改めて感じました。

【特集】 守山市教職員夏期研修

今年度は延べ760名の方に受講いただきました。自分の課題解決のため、学びを深めるため、リフレッシュのため等、様々な目的で受講していただいたかと思います。受講者の感想を一部掲載しますので、学びを共有いただけたらと思います。



今年度から Google フォームでの振り返りを導入しました。ご協力ありがとうございました。いただいた各講座のアンケートを参考にし、今後も教育現場のニーズにお応えできる研修講座を計画していきたいと思っています。

生徒指導・教育相談研修講座

(敬称略)


実践力形成ステージ

A-1 7/29(月)	生徒指導(いじめ・不登校等)の現状と 教職員として大切にしたいこと	守山小学校 教頭 大島 淳史
<p>○1 番心に残ったことは、こどもを常に真ん中にして考えるということです。保護者や教師の考えを優先してしまいがちなところをふり返り、見直すことができました。またリフレーミングを知り、物事を肯定的に考えられるように変換していく力も身につけていきたいと思いました。</p> <p>○いじめが増えている現状で、自分がささいな事だと思っていた事も該当する事に驚きました。いじめの定義を確認した上で、児童に寄り添った対応を行いたいと思いました。自分一人で抱え込むのではなく、生徒指導担当や管理職の先生と一緒に取り組みたいです。</p>		
A-2 7/30(火)	アセスメント演習 ～見立ての仕方・保護者理解・ 心地よく機能する声のかけ方～	滋賀県教育委員会 SC SV 社会福祉士 上村 文子
<p>○今日の研修で、心に残ったことは、背景を理解して、心地よく機能する声かけをすることの大切さと安全地帯の重要性です。家庭で愛情が上手く伝わらない子どもには、担任という存在がとても大切になってくると感じました。</p> <p>○本日の研修の中で、「知識は相手を理解する眼鏡」という言葉が印象に残りました。子どもにも様々な背景があるように、教員一人ひとりが生得的な価値観や経験の中で見てきたものが異なる。様々な意見を柔軟に取り入れることで支援の幅が広がることに気づきました。</p>		
A- 3 8/6(火)	自分たちでよりよい学級をつくっていかう ～学級経営が楽しくなる実践例～	学校教育課 教育支援アドバイザー 小川 宏
<p>○教師がこうしなさいというのは早いものですが、自分ごととして行動させるためには、子どもたちに投げかけて考えさせることが大切だと思いました。その投げかけ方もたくさん教えていただいたので2 学期から実践していきたいと思います。</p> <p>○学級をよりよくするためには、事実を子ども達が認識して、どうするかを考えるように促すことが一番の近道だなと感じました。ゴミ箱の話の中での「3 秒間見てきなさい」の言葉の使い方が大切だと感じました。</p>		
A-4 8/7(水)	先生も子どもも楽しい学校にしませんか？	教育支援センター 児童生徒支援室支援員 若山 希
<p>○先生が元気・パワフルだと子どもたちも元気になるということをよく耳にしますが、身をもって今日感じることができました。若山先生がとても元気・パワフルにお話しをしてくださるので自然とこちらも元気に笑顔になりました。2学期から子どもたちに元気を与えられるように今、エネルギーをためたいと思います。</p> <p>○楽しいとは何かについて学ぶことができました。楽しむにはまず安心感や居心地の良さが大切であるということが心に残りました。どんなことも捉え方次第でプラスにできるということを学び、これから意識していきたいと思いました。</p>		

発展・深化ステージ	E-1 8/2(金)	生徒指導上の諸課題に対する対応等について ※中堅者資質向上研修と兼ねる	滋賀県教育委員会事務局 指導主事 竹中 裕貴
	<p>○生徒指導等の諸課題について、自分の中の認識をアップデートでき、充実した研修となりました。</p> <p>○いじめ、不登校の児童がクラスにもいるので、実際に話を聴きながら、どのような対応がいいのか考える時間となりました。今回学んだことを、2学期以降に生かしていきたいです。</p>		
	E-2 8/2(金)	教育相談の視点を生かした支援のあり方 ※中堅者資質向上研修と兼ねる	守山市教育支援センター 相談員 小野田 祐美子
全ステージ	<p>○「子どもを見ることが大切」という言葉が心に残りました。子どもが発する言葉をそのまま受け止めるのではなく、表情や仕草、声色などから隠された気持ちを受け止めないといけないと思いました。そのためには普段から子どもたちの様子をよく見ていないといけないと思います。2学期からは忙しい中でも余裕が持てるようにして、子どもに寄り添うことを大切にしていきたいと思います。</p>		
	J 8/1(木)	先生方のメンタルヘルス ～少し楽になりませんか？～	龍谷大学現代社会学部 教授 山口 浩次
	<p>○ストレスをためない方法、「まあいいか」の魔法の言葉などうまくいかないこととの向き合い方を改めて教えていただきました。また、コーチングは知ってはいたけれど、実際にやってみると難しくてとても勉強になりました。教師として教える名人にもならないといけないけれど、同じように聞き名人にもならないと子どもに寄り添えないと思うので、今日を機にコーチングを意識してみたいと思います。</p>		




コミュニケーション力育成講座

実践力形成ステージ	B 8/2(金)	子どもに伝わるペップトーク	日本ペップトーク普及協会 講師 土田 政代
	<p>○受容、承認、行動、激励、この流れがとても大切だということがよくわかりました。コミュニケーションカードを使って自分の特徴(強み)を知ることができたので、それを活かしつつ、相手と関わっていけるといいなと感じました。ありがとうございました。</p> <p>○ペップトークが何故必要かを、自分を知ること、相手と自分の考え方の違いを理解することから実感的に理解できました。相手の気持ちや状況を思いやった承認や励ましの言葉かけができるよう、心がけたいです。</p>		
			



授業力向上研修講座

実践力形成ステージ	C-1 7/24(水)	みんなが楽しく参加できる音楽の授業づくり	宝塚市立小浜小学校 講師 松原 美保
	<p>○音楽の教科書に載っている活動も、工夫次第でこんなに楽しみながらできるということが分かりました。常時活動や歌遊び、ぜひ取り入れて行きたいと思いました。</p> <p>○子どものように体を動かしたり、歌ったりしてとても勉強になりました。また、悩んでしまう技能テストや思考の評価についてもこういうやり方もあるのかと勉強になりました。子どもが日々の学習の中で、楽しく音楽と向き合い、深めて行くためにまだまだ学ぶことがたくさんあると感じました。</p>		
			

実践力形成ステージ	C-2 7/26(金)	シンーズガコウサク2 新しい図画工作科の教科書を理解する	元校長 大西 健之	
	○子どもたちが色々と試す中で、自分のやりたいことや表したいことを見つけてどんどん取り組めるような授業作りをしていきたいと改めて思いました。また、素材との出会いも大切にしていきたいと思います。 ○新しい教科書に変わって、これまでとの違いについて知ることができました。またいくつか実技もあって、楽しく学ぶことができました。ありがとうございました。			
	C-3 7/31(水)	気づき感動し、自らの生き方を深く考える 道徳の授業づくり	長浜市教育委員会事務局 教育指導員 横尾 俊美	
	○実際に模擬授業をしていただくことで、切り返しの質問の仕方や雰囲気、悪魔の囁きなど分かりやすく知ることができました。また、横尾先生が笑顔で優しくお話ししてくださる様子から道徳をもっと自分が楽しんで子どもたちと過ごす大切な時間にしたいと思わせていただきました。今までがもったいなかったかもしれないとまで思えます。子どもたちが自分の思いを語ることが楽しいと思えるような道徳の授業が作れるよう学び続けていきたいと思います。 ○横尾先生の補助発問のところが私自身も聞いていて面白かったので、授業に取り入れ、子どもが道徳楽しいと思えるきっかけにしていきたいと思います。また道徳的価値についてじっくり考える手立てにもなれば良いと思います。			
	C-4 8/1(木)	授業づくりは学級づくりから！ 「市内の先生から学ぶ学級経営の考え方」	速野小学校 教諭 熊谷 龍 守山南中学校 教諭 濱田 昂平	
	○学級経営は生徒との関わりの中での信頼関係がないとできないことだと思いました。信頼関係を作るうえで生徒を理解しないといけないですが、そこで生徒を甘えさせるというわけではなく、しっかりと生徒が成長できるように教師が仕掛けていかなければならないと思いました。二学期から実践していくことが決まりました。 ○自分自身で考えてやっていることもたくさんあるけど、単発でのことが多かった。今回の話を聞いて、準備であったり先のことであったり、そういったことを考えてきめ細かい指導や支援をしていることが知れたので、自分もやっていきたいと思った。		 	
C-5 8/5(月)	理科で考える力を育もう ～単元や授業の構成のしかた～	守山南中学校 教諭 高山 孝介		
○子どもたちが熱心に取り組む授業を展開するためには、単元や授業の構成をしっかりと考えることや、単元で身につけたい力を使って解ける問いを設定し、単元を貫く課題設定を行うことが大切だとわかりました。面白く、わかりやすい講義でした。 ○今日の研修を受けて、改めて子どもの目線に立った導入の工夫や授業の展開、まとめが大切だと感じました。そうして、面白い授業をつくるのが自然と学びの意欲につながり、学力の定着になると思いました。				
C-6 8/5(月)	授業づくりで大切にすること	学校教育課 指導主事 川村 中		
○説明文の学び方の手順を詳しく教えてくださり、とてもよくわかりました。そして、説明文のことだけでなく、自分が子どもになったかのような気持ちになれば、細かい声かけなど実践的にやっていただきとても学びが多かったです。 ○説明文を理解することはもちろん大事だが、説明文を通して言葉の力や読み取る力を身につけることが1番の目的であることを認識できた。そのために、読み進めていくポイントとして「はじめ」「説明」「おわり」それぞれの性格があることも学んだ。2学期の授業づくりにぜひ活かしたい。				



発展・深化ステージ	F 7/30(火)	国語科の「個別最適な学び」と「協働的な学び」	京都女子大学 教授 水戸部 修治
	<p>○これまで、教材文を正しく読ませたいと思い、場面読みが大切だと思っていましたが、確かに大人になるにつれ必要となってくる力はそれだけではいけないと実感していました。本日はたくさんの事例から、子どもたちの一つ一つの活動には必然性があり、実践力につながるものだと思います。</p> <p>○今までの研修等で、並行読書やペアでの交流についての話を聞いたことはありましたが、動画などの様々な具体例を出して説明していただいて、よりイメージがはっきりとしました。書いてから話すことばかりだったので、話してから書くということをやりたいと思いました。</p>		



特別支援教育研修講座

実践力形成ステージ	D-1 7/25(木)	通常学級に活かせる特別支援学校での学び	守山小学校 教諭 中島 美波
	<p>○発想の転換をして、「困っている」ということは、「今のかかわりでは子どもは難しさを感じている」ということなので、子どもを変えようとするのではなく、大人が環境や支援の方法を変える必要があると感じました。</p> <p>○自分の視点一つで子どもへの支援の仕方がわかります。私たちは、常に学び続け、子どもたちが伸び伸びと学習できるよう環境を整えていく必要があると勉強になりました。</p>		
	D-2 7/26(金)	コミュニケーションが苦手な子どもへの理解と支援	小津小学校 教諭 伊藤 邦子
	<p>○トラブルや、その子の困りについて「早くなんとかしてあげないと」という思いも正直あり、支援支援になりがちだったと反省しました。支援を行うまでに、背景や要因をじっくり考えることが大切だと改めて気づくことができました。</p> <p>○困ったが言えない・余計な一言がある・ごめんねが言えない…など、様々な苦手を抱えていると思います。今日の研修を終えて、一概に「コミュニケーションが苦手」とくるのではなく、その子の背景を捉えて手立てを考えていきたいと思いました。</p>		
	D-3 8/8(水)	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた 学級づくり・授業づくり	守山小学校 教諭 北村 妙子
	<p>○その子のため、と思ってやっている支援も、実はクラスみんなにとってもプラスであることを聞き、「なにが特別なことをしなければ!」と難しく考えすぎていたのかなと思いました。誰にとっても分かりやすい、優しい環境を目指して2学期から取り組んでいきたいです。</p> <p>○文具やタイマーなど子ども達の身の回りも工夫するとよいこと、また1人の子にした支援が周りの子どもの支援に繋がるのがわかり、2学期からも学習活動に生かしていこうと思いました。</p>		
発展・深化ステージ	G 7/29(月)	発達障害を持つ子どもとのかかわりについて	済生会守山市民病院 医師 上羽 智子
	<p>○学校だと支援の方法ばかり探ってしまいましたが、そもそもの生活を改善したり、病気だから仕方ないと受け入れたり、薬に頼ったり、もっと他からのアプローチもあるのだとかなり視野が広がりました。一人で抱え込まず、さまざまな視点でアプローチして子ども達の困り感と向き合っていけたらなと思いました。</p> <p>○発達障害のことだけでなく起立性調節障害や頭痛腹痛のことに関してもお話を聞けてとても良かったです。担任をしている子どもたちの中にこういった子どもたちがいるのでそういった子どもたちとの関わりはもちろん、保護者との関わりにも活かしていきたいです。お話を聞いてもっと深く知る必要があると感じました。</p>		

学校マネジメント研修講座

H-1 7/31(水)	学年主任とは？ 「市内の先生から学ぶ学年経営の考え方」	守山小学校 教諭 小西 敦	
		物部小学校 教諭 藤 正道	
		守山北中学校 教諭 浅野 智子	
		明富中学校 教諭 橋本 孝宏	
<p>○普段聞けない主任の先生方の思いや大切にしていることを聞くことができ、とても良かったです。また、それぞれの先生によって違いがあったり、同じ思いをもたれていたりしていたため、それぞれのよさを取り入れられたいいなあと感じました。まだ主任をしていますが、今回の研修で学んだことを大切に、自分ができていることをしていきたいです。</p> <p>○日頃、校内で過ごしていると聞きづらいようなことや話題に上がらないようなことを聞いて嬉しかったです。特に主任1年目ということもあり、色々な考えがあり、そのどれも魅力的に感じました。ただそれを真似するだけでなく色々な手法を取り込みながらオリジナリティを出して今後活かしていきたいと思います。</p>			
H-2 8/21(水)	物をつくる前に人をつくる ※中堅者資質向上研修と兼ねる	パナソニックエレクトリックワークス創研株式会社	
		上席コンサルタント 五十嵐 克行	
<p>○学校と異なる視点からのお話でとても勉強になりました。特に経営理念のところでは、企業と同様守山市の基本理念や学校の経営方針などをしっかりと共通理解しておくことが大切だと感じた。また、CSのところでは、保護者や子どもの話を聞くだけでなく、相手の求めていることを意識して対応していくことが大切だと感じた。</p> <p>○「指示待ち人間ではなく、提案型人間になってほしい。」という言葉が心に残りました。子どもたちに対して「気づき、考え、実行する」姿を求めているながら、組織の中で働く自分はどんな人間・姿であろうかと省みる機会になりました。いつの間にか、面倒なことからうまく逃げる道を探すようになっていました。当事者意識を持ち、自らを「自分で考えて、行動できる人材」に成長させていきたいです。</p>			



教師力・人間力向上研修講座

I 8/6(火)	先生のためのお天気講座	日本気象協会 関西支社
		気象予報士 石井 元樹
<p>○雲の種類やでき方や天気予報の仕組みなど普段考えたことのない内容まで詳しく知れてとても面白かったです。そして、文学的な面まで、ことわざや漢字の成り立ちも知れてロマンチックに天気を考えられた気がします。石井さんの天気予報見てみようと思います！</p> <p>○楽しいお話がたくさんありましたが、一番印象に残った言葉は「準備がすべてを決める」です。4、5 分の放送のためにデータ分析や原稿作りをされていて、それが日々続くのだと分かりました。今日から天気予報の見方がかわりそうです。</p> <p>○今日の研修の中で、講師の先生の話はとても聞きやすく、内容はもちろんですが、聞く側の受け取りやすい話の構成にも学びがありました。一つ一つのテーマが端的にまとめられ、クイズを散りばめることで聞く側も考え想像し、参加できることで、飽きることなく楽しみながら話に耳を傾けることができました。また、気象予報士の仕事を知り、時間内に話さることや視聴者が分かりやすく必要な情報をキャッチできるよう工夫されているということも、教育現場に通じる部分が多いと感じました。準備が全てを決める…という部分も納得です。伝えたいことを伝えるための工夫を今回の学びを参考にしたいと思います。</p>		
<p>天気のマメ知識② 雲の数え方って？</p> <div><div>飛行機雲 1本</div><div>綿雲 1朵</div><div>うろこ雲 1点</div><div>ひじき雲 1群・1叢</div></div>		



幼児教育研修講座

K-1 7/2(火)	幼児期の運動能力を育む遊びの実践 ～保育者と一緒に体を動かして遊ぼう～	浮気保育園保育士 堀川 真吾 中洲こども園保育教諭 板坂 果歩 認定こども園守山幼稚園教諭 春尾 浩暉
<p>○はじめに「ロケットを作る」と聞いて製作遊びなのではと考えたが、日常生活で投げるといった行為が減っている子どもたちにとってはロケットを投げるということが運動遊びになるのだと感じた。空間を狭めたり、鬼の人数を増やしたりとルールが変わって楽しいだけでなく、その範囲だけで動くこと、多くの鬼から逃げる判断など、様々な力が養われるのだと学んだ。</p> <p>○ロケットづくりでは、どうしたら遠くに飛ぶのか、遠くに飛べた人はみんなで見て、歓声が上がっているのを見て、あれが遠くまで飛ぶのか、と思って真似をされていて、全員で遠くに飛んでいる人を見る、ということも保育の中で考えられる姿だなと思いながらやっていました。鬼ごっこでは、ルールが変わることで楽しみ方もどんどん変わっていくので、どんなルールが楽しんでほしいこと、経験してほしいことに合っているのかを考えることが大事だということを学びました。</p>		
K-2 8/20(火)	「すべての子どもにとって楽しい保育のあり方」 ～造形あそびの視点から～	元校長 大西 健之
<p>○どうできたかではなく、どのように取り組んできたかという過程や、どのようなことを感じているかという内面に焦点を当ててかわることの大切さを学びました。実践する中で素材に向き合ってみると子ども達がどんなことを感じているのか、ということに改めて考えるきっかけとなりました。違うから素晴らしい、その子どもの思いや表現がとても素敵であることを子ども自身にも保護者にも伝えて行きたいと思います。</p> <p>○実践で新聞やポリ袋を使って遊んだが、子どもはどんなことを考えるかな、遊びを広げるかなと思った。楽しいと感じていることをのびのびできる環境を作ったり、思いに共感したりして子どもと関わって行きたいと思った。</p>		

指定研修



中堅者資質向上研修(2回)も実施しております。夏期研修講座と兼ねて行っておりますので、上記の夏期研修講座をご覧ください。

【ステップアップ研修】

ウー2 8/8(木) 授業づくりのポイント



ウー3 8/20(火) 学級づくりのポイント



【ボトムアップ研修】

オー2 (選択研修)

A-2 (教育相談) A-3 (学級づくり)
C-3 (道徳) D-3 (特別支援教育)

※今年度は自分の課題に応じて研修の内容を選択して受講するようにしました。

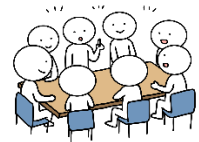
オー3 8/21(火)

守山市の学力向上の取り組み(兼中堅研)





第11回生徒会サミットを開催しました



令和6年8月2日（金）、守山市民ホールに市内5中学校（県立守山中学校は都合により欠席）の生徒代表者が一堂に会し、第11回生徒会サミットを開催しました。

今回のサミットは、今の3年生にとって1年間のまとめとなるものです。まずは、各校から1学期の実践や2学期の活動に向けての報告を行いました。アイスブレイクから盛り上がり、各校からの報告も和気あいあいとした雰囲気の中で行われました。今回の「飛び出し坊や」「清掃活動」「もりやまいち」の取組に関しては、飛び出し坊やの設置場所についてなど、子どもだけの判断で決められないこともあり、事務局より課題と取組の方向性を説明しました。説明を受け、全体の協議で「清掃活動」については、後日行われる「平和を誓う集い」終了後に運動公園周辺の清掃活動を行うこと、「もりやまいち」については立命館守山中が中心となり企画運営を行い、アイディアを結集させることを決定しました。「飛び出し坊や」については、ペンキなど必要なものの種類と量、また、その作業で気を付けることなどについて意見を交換しました。参加いただいた青少年育成市民会議の方からも「どこか設置場所が決まれば、その自治会に声をかけておきますよ」や「ペンキは水性で大丈夫ですよ」など、いろいろと協力的な意見をいただきました。本当にありがとうございました。



最後は全体研修会です。今回のサミットが3年生にとっては、最後となります。今までサミットに関わってきた思いや今後に向けての願いなどを、各校から代表者が発表しました。「はじめの方は緊張して発言もできなかったけど、他校の人と仲良くなるにつれ発言もできるようになった。本当に楽しくて有意義な時間だった」「他校の人といろいろな交流することは、本当に楽しかった」「積極的に発言することで自分の視野も広がるし、そのことは少しずつ自信となっていった」など、今までの経験・体験から熱い思いを伝えてくれました。

3年生からのメッセージは、次代を担う1・2年生にしっかりと引き継がれたと感じました。

今回のサミットにも、教育長や学校教育課長にも参観いただきました。子どもたちにとって、これまでの活動を振り返るとともに、これからの活動意欲を高める、たいへん充実した時間となりました。

最後に、この1年間ずっと運営を担ってくれた立命館守山中学校生徒会の準備や後始末でのテキパキとした動きと、ユーモアを交えた明るい司会の雰囲気は、生徒会サミットを支えてくれました。ありがとうございました。大変素晴らしかったです。次回開催は、令和6年12月上旬に予定しています。次回からは、新生徒会メンバーでのサミットとなります。今後よろしくお願いいたします。

